

第36回
北九州大腿骨近位部骨折
地域連携パス協議会

2023年1月26日

北九州大腿骨近位部骨折地域連携パス協議会事務局
産業医科大学 リハビリテーション部
村上 武史

本日の議題

1. 地域連携パス北九州標準モデル利用状況
2. 5回の立ち上がりテスト(改訂版)の評価特性及び退院時歩行能力の予測精度に対する調査の進捗報告
3. その他

本日の議題

1. 地域連携パス北九州標準モデル利用状況
2. 5回の立ち上がりテスト(改訂版)の評価特性及び退院時歩行能力の予測精度に対する調査の進捗報告
3. その他

大腿骨近位部骨折地域連携パス 集計結果

全受理データ

(2011年8月～2022年12月9日)

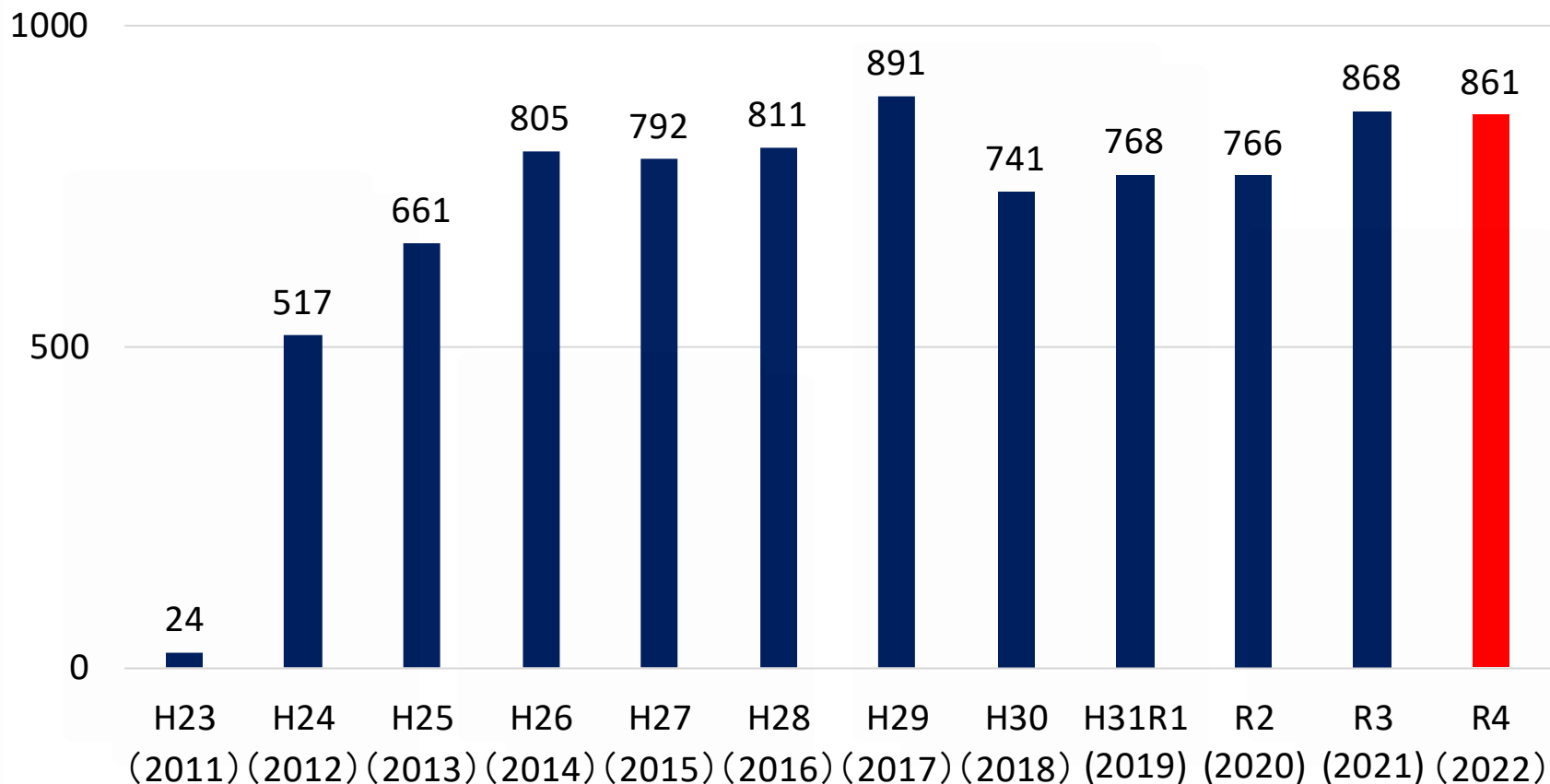
地域連携パスの利用状況

2022.7.22～2022.12.9までの約4カ月間

- 急性期医療機関のパス利用状況
 - 事務局へ送信された件数・・・**117件**
 - 合計8505件(受理5848件＋未送信2657件)
- 回復期等連携医療機関のパス利用状況
 - 事務局へ送信された件数・・・**237件**
 - 合計8505件(受理6942件＋未送信1563件)
- 急性期医療機関と回復期等連携医療機関の両施設の利用状況
 - 事務局へ送信された件数・・・**136件**
 - 合計**4286件**

年別の地域連携パスの利用状況

前回からの増加件数 : 218 件

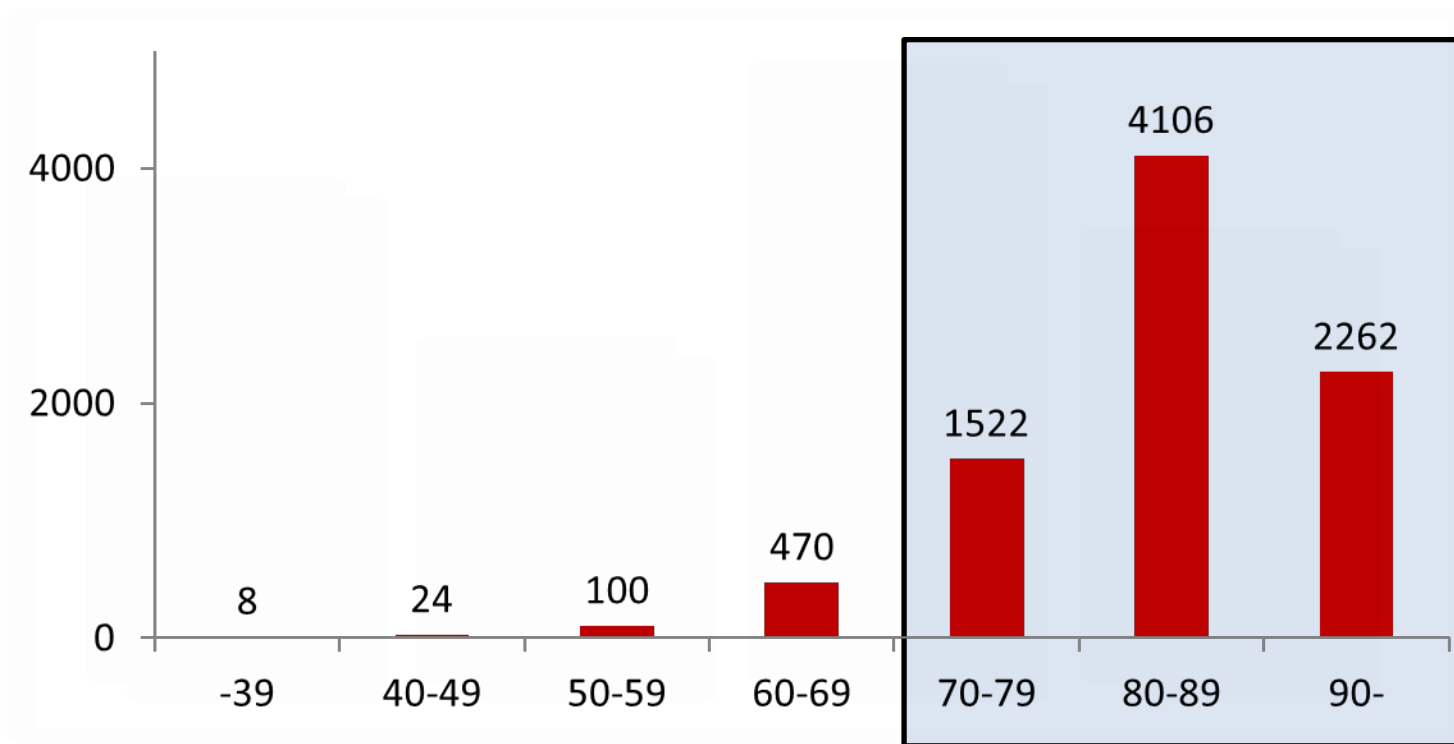


年代別利用状況

発症平均年齢 83.8±9.0歳

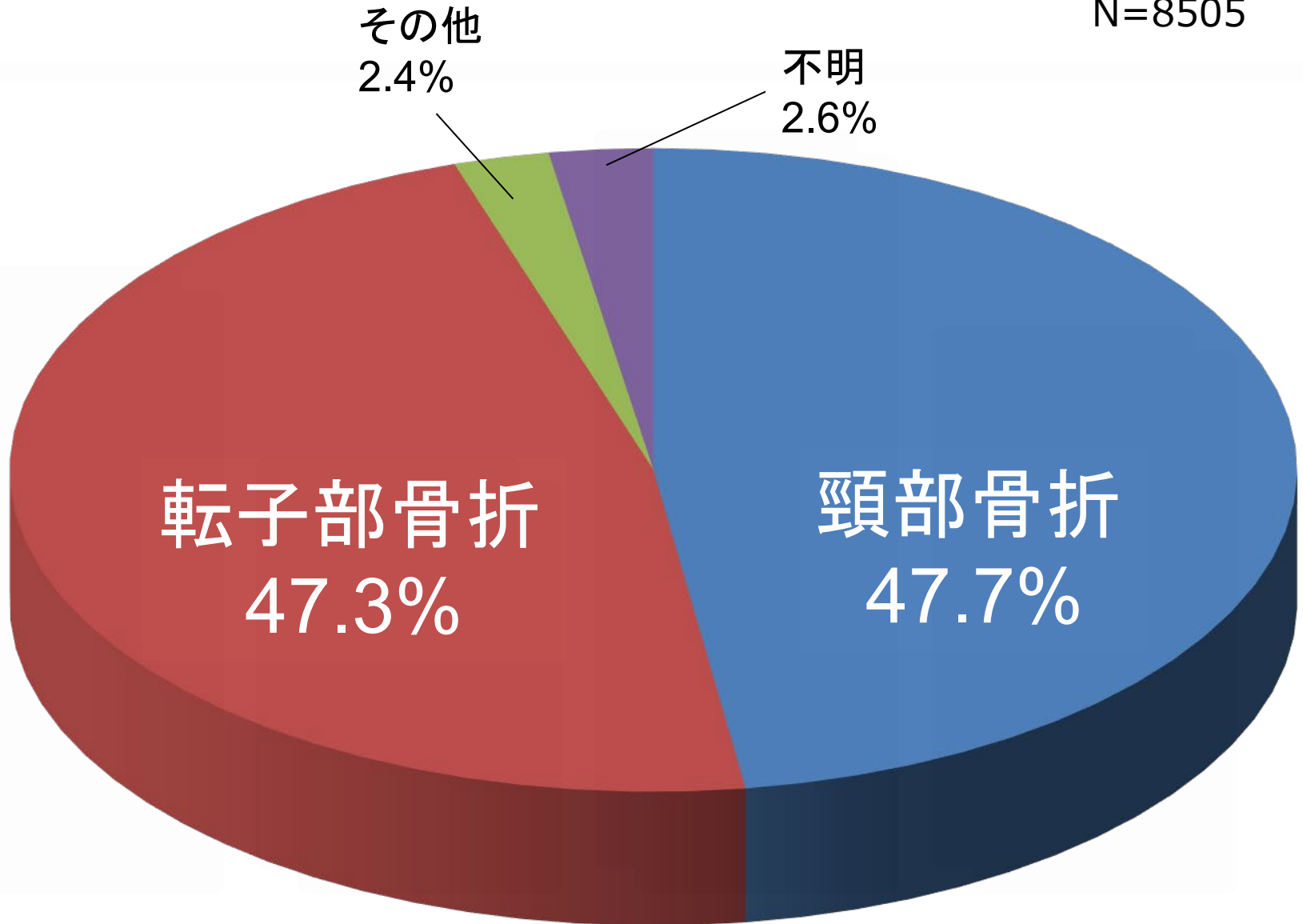
N=8492

(件)

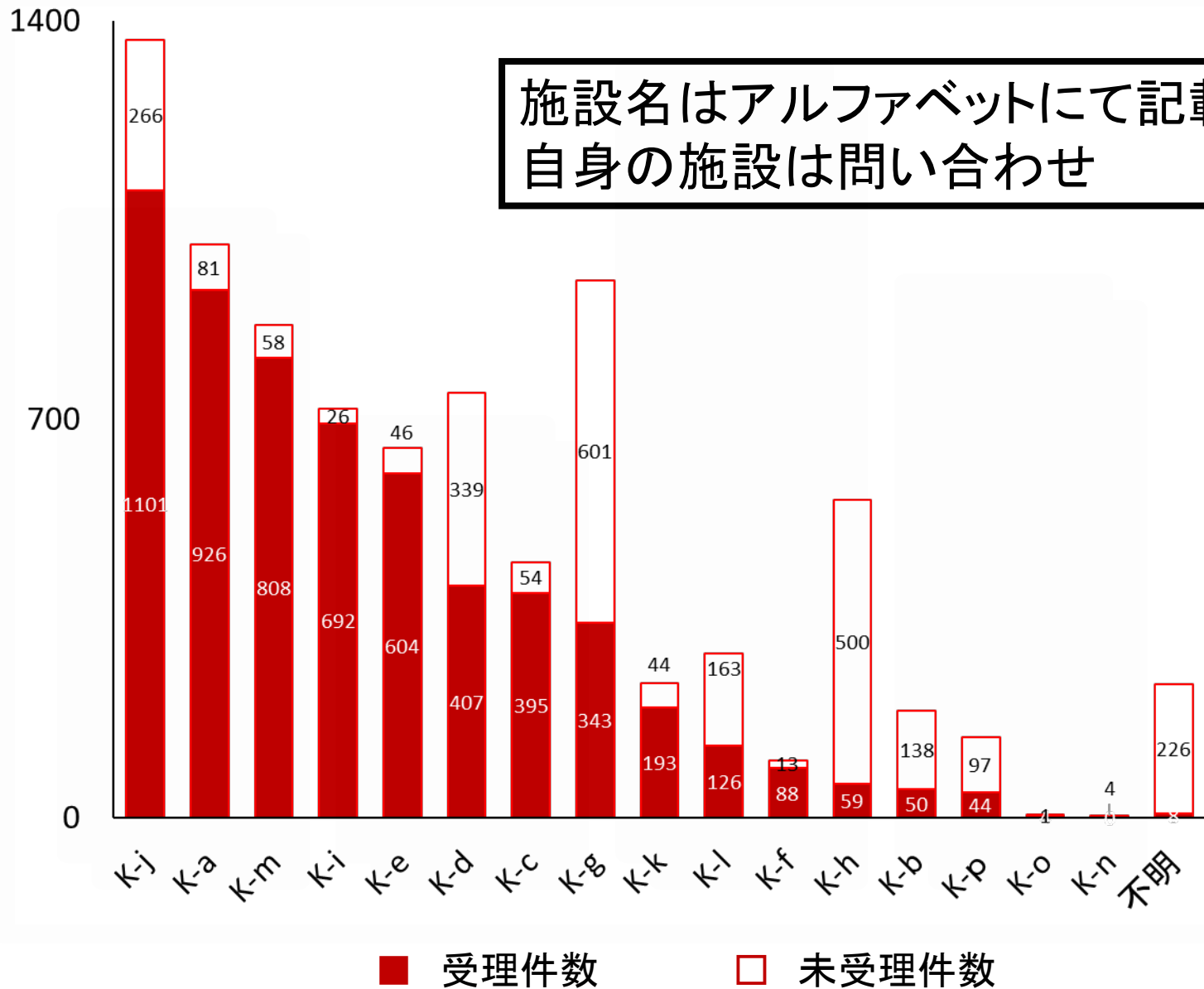


骨折型別発症割合

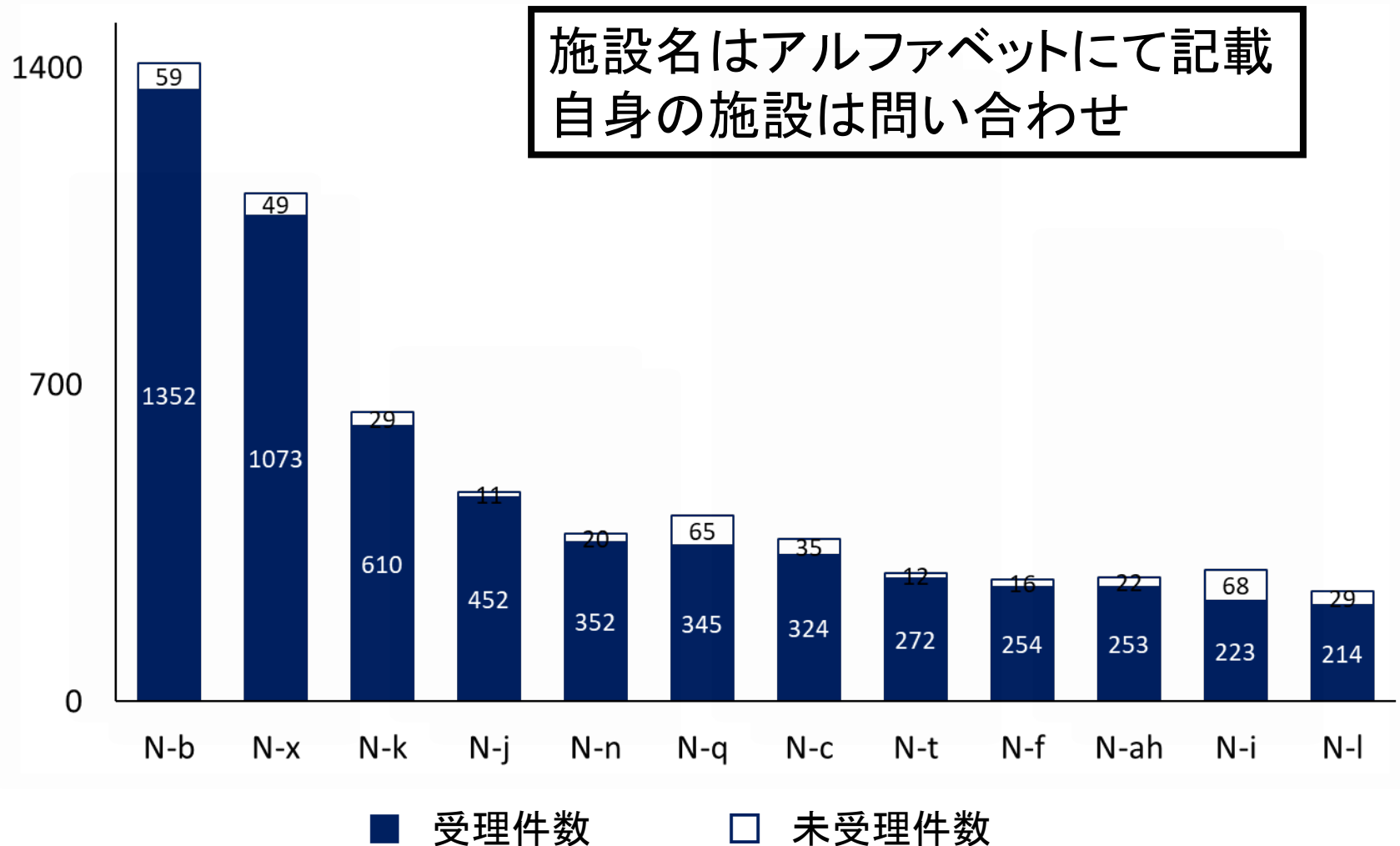
N=8505



急性期医療機関



回復期等連携医療機関①

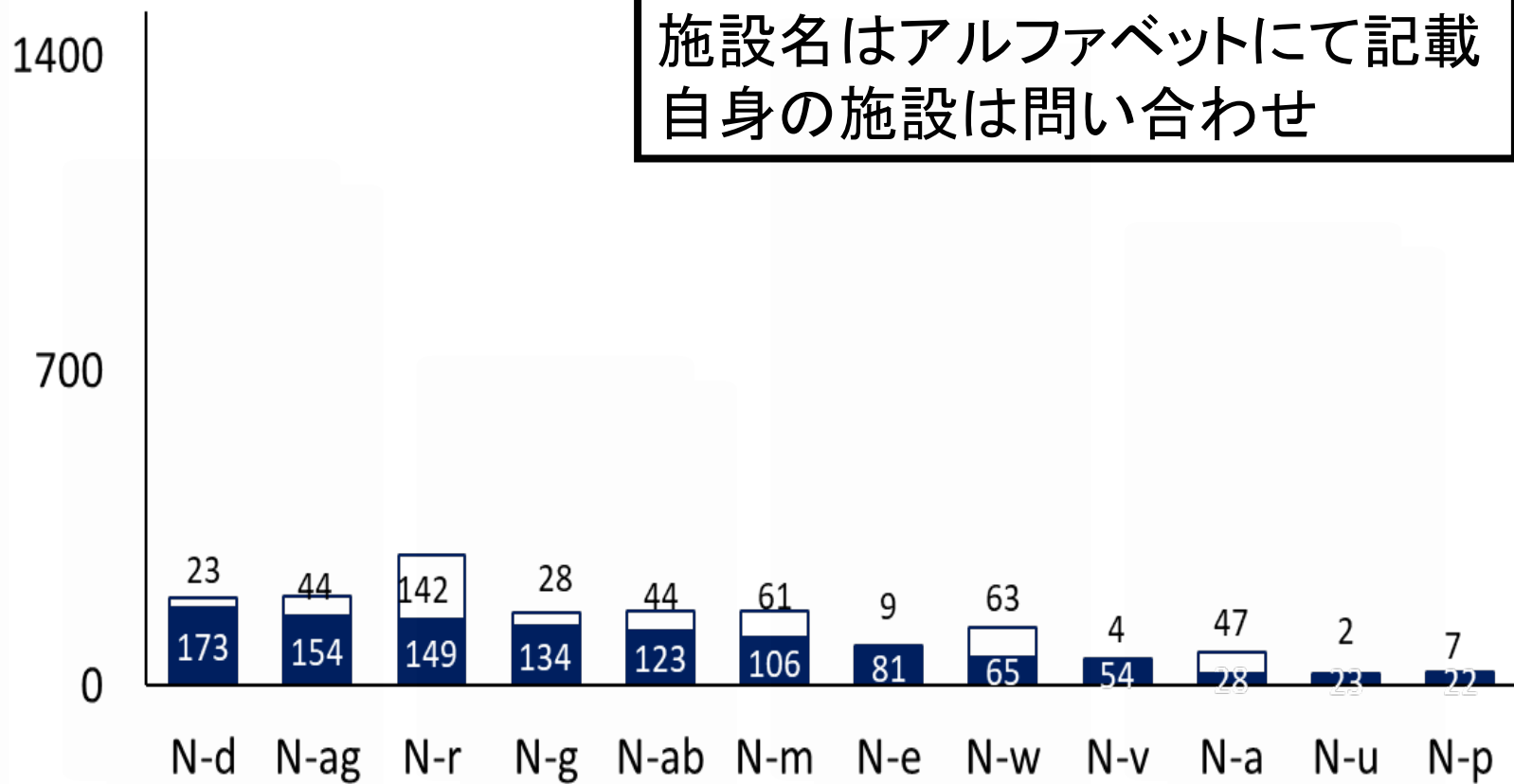


* 現在入院中の可能性があるため、受案件数が低い場合あり

* 20件以上受理した施設

回復期等連携医療機関②

施設名はアルファベットにて記載
自身の施設は問い合わせ



■ 受理事件数

□ 未受理事件数

* 現在入院中の可能性があるため、受理事件数が低い場合あり

* 20件以上受理した施設

本日の議題

1. 地域連携パス北九州標準モデル利用状況
2. 5回の立ち上がりテスト(改訂版)の評価特性及び退院時歩行能力の予測精度に対する調査の進捗報告
3. その他

研究背景

大腿骨近位部骨折は受傷頻度の高い疾患で、

受傷後は歩行・ADL能力の低下

→歩行の再獲得の可否は生存率にも影響

5回の立ち上がりテスト(Five-times-sit-to stand test: 5TTS)

→筋力、歩行速度、動的バランス、心肺持久力と関連

Xianyang Sherman Yee, et al: Eur Aging Phys Act

アメリカ理学療法士会のガイドラインにおいて

大腿骨近位部骨折術後患者に対して5TTSの評価を推奨

McDonough CM, et al: J Orthop Sports Phys Ther 2021

急性期では上肢支持がなければ評価困難

→上肢支持を用いた評価の報告はほとんどない

調査の目的

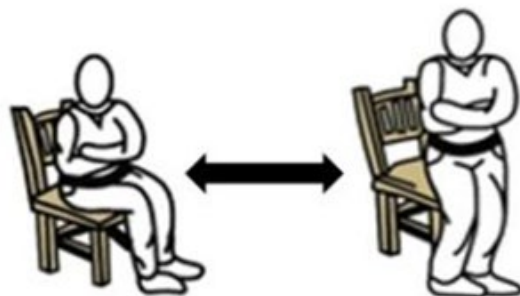
大腿骨近位部骨折術後患者における上肢を用いた
5回の立ち上がりテスト(5TTS)改訂版の検者間信頼性
、およびその妥当性を明らかにすること

5TTS改訂版の結果が回復期病院退院時の歩行機能
および患者の転帰の予測因子となるかを検討すること

方法

- 対象 大腿骨近位部骨折を受傷し、当院手術が施行された
40歳以上の者、受傷前に屋内歩行が可能であった者
- 研究期間 令和4年6月27日から令和7年6月26日の3年間(予定)
- 評価項目 (当院退院時)
5TTS改訂版、筋力(上下肢)、疼痛、日常生活動作、
認知機能検査、歩行機能
- (回復期病院退院時)
パスデータより歩行機能および転帰

5回の立ち上がり試験改訂版



5回の立ち上がり試験
(改訂版は上肢支持を利用)

- 測定環境 椅子は座面の高さが43～45cmに調整
手すりや平行棒等の物的介助の使用は許可
- 測定 ストップウォッチを用い、測定のタイミングは『セラピストが声掛けを始めた時点から、5回目の動作終了時に椅子に身体が触れた時点』。
各測定者が2回実施し、2回の平均値を代表値
- 声かけ 「できるだけ早く5回立ち座りを繰り返してください」
「手すりは用いて構いません」

進捗報告

- ・2022年9月～2023年1月まで、大腿骨近位部骨折を受傷し、当院へ救急搬送された約40件のうち11件を当院退院時に測定済み。

(信頼性・妥当性における目標件数 30件)

- ・除外理由

→上肢骨折の併存、免荷、重篤な心疾患、
保存加療